

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
再生普及行動計画ワーキンググループ（第8回）

議事要旨

平成17年10月31日（月）18:30～20:10

釧路地方合同庁舎4階 共用第3会議室

【出席者（敬称略）】

再生普及行動計画ワーキンググループ構成メンバー

<個人（所属）>

- ・金子正美（酪農学園大学環境システム学部 助教授）
- ・清水信彦
- ・新庄久志（釧路国際ウェットランドセンター主幹）
- ・滝川喜三
- ・永瀬知志

<団体（出席者）>

- ・釧路湿原ボランティアレンジャーの会（近藤一燈美）
- ・釧路市民活動センター わっと（佐藤真紀）
- ・釧路シャケの会（成ヶ澤 茂）
- ・釧路武佐の森の会（大西英一）
- ・ボランティアネットワーク・チャレンジ隊（佐竹直子、酒田浩之）

<関係行政機関（出席者）>

- ・環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所
(所長／星野一昭、次長／吉中厚裕、国立公園・保全整備課／樋口悟一)
- ・林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター（所長／藤村 武）
- ・北海道釧路支庁（地域政策部環境生活課自然環境係／後藤達彦）
- ・北海道教育庁釧路教育局（社会教育係／島倉修一）
- ・釧路市（環境政策課／福田芳弘）
- ・釧路町（産業経済課／中野正人）
- ・弟子屈町（環境対策課／館田 康）
- ・鶴居村（産業課／高松一哉）

再生普及小委員会（所属）

<個人（所属）>

- ・高橋忠一（北海道教育大学釧路校 助教授）

再生普及行動計画ワーキンググループ事務局

- ・環境省北海道地方環境事務所 釧路湿原保護官事務所（山本 豊）
- ・財団法人北海道環境財団（内田しのぶ、久保田学）

【議事概要】

〈事務局〉 第8回再生普及行動計画ワーキンググループ（以下「行動計画WGと表記」）を開催する。
ここからは進行を座長にお任せする。

〈座長〉 今回は今年度の中間報告と来年度に向けての動きについて検討していく。ではまず議事1つについて事務局からの説明を求める。

〈事務局〉 資料1-1『2005年度具体的取組み進捗状況（概要）』について説明。前回の小委員会開催以降、

座長、小委員長に相談のうえ、資料 1-1 一覧表冒頭の 6 件を 2005 年度の取り組み一覧に、事務局判断で追加した。追加案件のたびに行動計画WG や小委員会を開催することは不可能なので、今後もこうした追加については、行動計画WG 事務局に一任いただくことについて、お諮りしたい。

(一同了解)

資料 1-2 『具体的取組み報告』について説明。終了した取組みについては、以前お諮りした様式（資料 1-2）の通りに整理し、年度末に報告書としてまとめる。また、取組み報告の一部を行動計画WG のホームページにも公開しているのでご覧いただきたい。

〈座長〉 ここまで事務局の説明に感想、コメント、質問などあればお受けする。

取組み報告書の配布の予定は？

〈事務局〉 行動計画WG メンバー、今年度の応募者に配布すると共に、次年度の募集時等に活用する。

〈委員〉 報告書の利用の仕方・活用は大切である。これまでのような配布などのやり方では、なかなか人目に付かない。メンバーに配布するよりも一般の目に触れるような活用をしたほうがよい。

〈座長〉 協議会メンバー内での配布だけではなく、「わっと」や学校など多くの人の接点を持つようなところに置いて、手に取りなくなるよう表紙を見栄えよくすることやニュースになるような出来のものを用意することなどが必要である。

〈委員〉 活動の問い合わせ先が書いてあると良い。

〈委員〉 直接問い合わせてもらったほうが良いと思う。

〈委員〉 事務局一括の方がよいのではないか？

〈委員〉 報告書に対する反響をみるなら、事務局を窓口とする必要があるのでは。

〈座長〉 双方のニーズを勘案し、使い分けるようにしたい。

〈委員〉 報告書の配布先は、最低限学校に配れないか？

〈座長〉 協議会関係市町村の小中学校や公共施設にも配布することとしたい。

他にないか。では、議事 2 について事務局からの説明を求める。

〈事務局〉 資料 2-1 『2006 年度具体的な取組み予定募集概要（案）』、資料 2-2 『2006 年度具体的な取組み予定応募用紙』に基づき説明。

前回教育委員会にある各学校へのポストを活用しチラシを配布したが、学校にはうまく届かなかつたので今回は校長会で PR することとしたい。募集の方針として、直接釧路の自然再生に関わらなくとも、釧路の自然再生に貢献する取り組みであれば幅広に受け入れていきたい。大きな変更点は、応募いただいた取組みは行動計画WG と再生普及小委員会の承認後に公表することを明記して募集する。また、団体の活動概要を申請時点で様式に書いていただくように応募様式を変更する。この 2 点である。

〈座長〉 意見等あればお受けする。

〈座長〉 「応募いただいた取組みは行動計画WG と再生普及小委員会の承認後に公表する」ことの表記に関して、応募用紙にも記載したほうが良い。

募集時点では前年度の報告書がないが、プレス向けになにかアピールすることができないか。

〈委員〉 例えば 1 月までのものを中間報告として出すことなら可能では。

〈委員〉 「報告集の完成」だけでは話題性に欠ける。「具体的な取組み」など表現が硬いので、一連の取組みの愛称やキャッチフレーズ、統一ロゴマーク等があるほうが市民に対してアピールできる。みんなが参加したいと思う「わくわく感」がほしい。

〈委員〉 今年度実施してみて、それぞれの取組みがバラバラに感じる。他団体の行事日程もお互いわからなかつた。来年度は各団体の 1 年間の取組みスケジュールが一目でわかるような一覧表にて

きるとよい。釧路湿原国立公園連絡協議会で年間行事予定のポスター・チラシを作つて配布していたが、それを見て行事に参加した人も多かった。そのような形で取組みが一目でわかるようにできると良い。

〈事務局〉 取組み日程まで最初から決まっている団体は少ないのではないか。

〈委員〉 釧路市生涯学習センターまなぼっと発行の「かわら版」のように、月ごとの行事予定を紙で出すこともできるのではないか。

〈委員〉 一番多くの人に見られているのは「広報くしろ」など。各町村にも媒体があるはず。

〈委員〉 釧路湿原国立公園連絡協議会のポスターも印刷時点で決まっている情報しか掲載できない。主催者同士で交換したい情報と、一般向けに広報したい情報は同じではない。前者は協議会のホームページなどで共有してはどうか。

〈委員〉 決まったものから行動計画WG事務局でホームページに書き込んでいってはどうか。

〈事務局〉 主催者同士の情報交換に関して、北海道環境財団のメール情報のようにccで希望者に発信することもできる。

〈委員〉 一般公開のホームページを使って、確定していない行事の公開はできないのでそうした方法でいいと思う。

〈事務局〉 主催者同士の情報交換として、どのレベルの確定度の情報を流せばよいか？

〈委員〉 主催者が流してほしいという希望があるときに流せばよい。

〈委員〉 不確定な情報に対するニーズはあまりないのではないか。

〈座長〉 今回の『2006年度具体的取組み予定』の応募状況を見て判断することとした。

〈委員〉 応募用紙の様式や書き方について、堅い印象をなくし、書きたくなるような工夫が欲しい。

〈委員〉 エコマネーのような取組みにつなげたら広く世間にアピールできるのではないか。

〈委員〉 エコマネーのような取組みにつなげるのであれば、経済活動としてしっかりした地域づくりの取組みである必要がある。もっと時間をかけたほうが良い。再生普及行動計画を普及することの意味、参加することでどうなるのか、参加の達成感などを明確にすると報道などでのPRとしては扱いやすい。

〈座長〉 では、行動計画のロゴマーク、キャッチコピー、応募様式を行動計画WGメンバーから年内期限で募集することとする。協力をよろしくお願いしたい。

〈座長〉 議題は以上だが、他にこの機会に意見等があれば自由に発言願いたい。

〈委員〉 募集の強化月間だけではなく、例えば、釧路なので9月4～6日に集中して行事を行うなど取組み実施の強化期間を設けてはどうか。

〈委員〉 時期だけではなく、合同でできる取り組みもあるはず。募集して参加者が集まった段階で、そうしたすりあわせができるとよい。

〈事務局〉 今年度協力の意思を表明している「リンク・リング」に対して、まだ希望がなく実績がない。こうしたものに対して是非、縁組みできると良い。

〈委員〉 応募状況を見て事務局で調整できないか。同じ場所で1週違いの行事が開かれたりすることもあり、残念に思うことがある。

〈委員〉 市民活動であれば、間を取り持つコーディネーターがいれば、調整は可能だと思う。先日、社会教育委員会の最後の集まりで、湿原マラソンと釧路湿原やちの会のウォークラリーなどの一体化ができるといいと感じた。

〈座長〉 それでは、進行を事務局にお返しする。

〈事務局〉 10月に滋賀県滋賀町から行動計画を参照したい旨、連絡があった。行動計画概要版英語版が完成した。来月のラムサール条約会合で配布予定。国際会議やJICA研修等で利用する予定だ

が、他にも必要なときには事務局に連絡をいただきたい。今後のスケジュールについて、1月中をメドに募集チラシを作成するので、今後配布等ご協力お願いしたい。次回の行動計画WGは募集終了後に開催する。

本日の行動計画WGを終了とする。

以上